

交通空白解消へ、生活の足を「重ねる」小山モデル

人口減少に直面する多くの自治体が、「交通空白」という共通の壁の前に立っています。同じ課題を抱える静岡県小山町（人口1万6472人）が選んだのは、複数のサービスの「重ねる」という道です。デマンドバス、巡回バス、公共ライドシェアを組み合わせて生活の足を三層の網の目へと編み直し、交通空白の解消に取り組んでいます。その3サービスの運行を一括して引き受けるのが、送迎バスを専門に車両運行管理を手がける株式会社みつばモビリティ（ソシオークグループ）。増車に頼らず利便性を高めた再編の背景を、込山正秀町長に伺いました。

みつばモビリティ×静岡県小山町



静岡県小山町長
込山 正秀（こみやま まさひで）

三つの交通を1社に束ね一つの網として動かす

「小山町の地域交通について、今、どのように運行されているのか教えてください。」

込山正秀 静岡県小山町長（以下「込山」） 小山町は、2025年7月に自家用有償旅客運送事業による運行を開始しました。予約制のデマンドバス、町内4ルートで5地区を巡る巡回バス、そして一般のドライバーが自家用車で運ぶ公共ライドシェアの三つを組み合わせて、住民の足を支えています（他に、通学用の定時運行バスも運行）。生活を支えるこの三つのサービスを、みつばモビリティという一つの事業者にとまめて委託しているのが「小山モデル」です。

三つの公共交通には、それぞれ得手不得手があります。デマンドバスは、町内289カ所、御殿場市内8カ所のバス停を約200m間隔で張りめぐらせ、予約に応じて家の近くのバス停から目的地まで運びます。町全体を面でおおえるのが強みですが、車両は7人乗りで、平日3台、土日祝2台。一度に運べる人数には、どうしても限りがあります。

一方の巡回バスは、決まったルートを決まった時間に走ります。行き先も時間も自由には選べませんが、予約が要らず、運賃も無料です。四つのルートで町内を回り、病院やスーパーといった目的地へ、時刻表どおりに運びます。1周はおよそ50分。次のバスが来る時間が読めますから、それに合わせて出かけるという使い方が定着しています。

そして公共ライドシェアは、一般のドライバーが自家用車で、自宅から目的地まで直接お送りする仕組みです。停車場所や時刻が固定されたバスとは異なり、柔軟な移動を提供します。

「運行を1社にまとめたメリットは何でしょうか。」

込山 三つの交通サービスを一体で設計できるようになったことです。デマンドバスの予約が埋まってしまう時間帯は、同じ方面へ走る巡回バスに乗っていただく。逆に、巡回バスのルートから外れた場所や、時刻表に合わない時間帯は、デマンドバスで拾う。互いの足りないところを、もう一方が埋める。そうした調整が、一つの事業者の中でできるようになったため、効率が上がりました。

空き家を営業所に転用雇用も地域から生まれた

「この形にたどり着くまでには、どのような背景、経緯があったのでしょうか。」

込山 人口減少や高齢化が進む中、既存の公共交通だけでは移動の自由を確保し続けることに限界を感じていました。町内に本社を置くタクシー会社もなく、既存の路線バスも乗る方が減れば本数も減り、運賃も上げざるを得ない。最も必要としている高齢者ほど、バスを使えなくなってしまう。ちようど免許返納も広がり始めた時期で、高齢者の足を何とか確保しなければ、という思いが決断のもとです。

小山町は1町3村が合併した町で、旧町村ごとに中心部が分かれ、町が一つに凝縮していません。町内には大きな病院がなく、通院となれば隣の御殿場市まで移動する必要があります。赤字を補助金で埋めたり、路線を一部だけ手直したりという対応では、その場はしのげても、町民の暮らしを将来にわたって支えることはできません。交通のあり方そのものを、根本から見直す必要がありました。

「まず取り組んだのが、デマンドバスの導入でした。」

込山 2020年運行を開始しました。好評でしたが、人気ゆえに予約が取りにくいという、新たな課題も出てきました。車両を増やせばいい、という話でもありません。試算では、1台増やすと年間2000万円ほどの負担

が新たに生じます。台数を重ねれば、その支出が毎年、積み上がっていく。しかも一つの手段だけでは隙間ができますし、事業ごとにばらばらに対策を打てば、費用はかさむばかりです。

そこで考えたのが、増やすのではなく「重ねる」という発想でした。みつばモビリティと出会った後、2024年に巡回バスの実証運行を開始、2025年4月には公共ライドシェアの試験運行を実施しました。一つひとつは小さな路線でも、重ね合わせれば町全体をおおう網になります。

「町がそうした運行を担うには、制度の壁もあったのではないのでしょうか。」

込山 町が交通事業者になるためには「自家用有償旅客運送」の登録が必要です。そのためには町が「公共交通空白地」であることが条件だったので、当時の小山町は該当しませんでした。ところが2024年度に定義が変わり「タクシー等が30分以内に配車されない」といった時間的な空白も対象になりました。小山町もこれで、道が開けたわけです。

「運行を担うみつばモビリティとは、どのように出会ったのでしょうか。」

込山 複数の公共交通の運行をまとめて任せられる事業者を、見つけるのは簡単ではなかったと聞きます。粘り強く探し続けた担当職員が、ようやく巡り会ってくれたのが、みつばモビリティでした。ありがたかったのは、その後の動き方です。町内の空き家を営業所に転

小山町のコミュニティバス

住民の生活を支える以下の3サービスを、みつばモビリティが一括して受託し、運行計画から運行管理、ドライバー確保、コールセンターまでを一貫して担っている。運行主体は小山町（自家用有償旅客運送の登録者）。

ライドシェア



個人のドライバーが自家用車を活用して利用者を運ぶ新しい移動手段。AIシステムを通じて利用者のドア to ドアでの移動が可能。予約は専用アプリまたは電話で受け付けしており、高齢者を含む幅広い利用者とドライバーがマッチング。住民が安心して利用できる環境を整えている。インパウンド富士登山対応に向けたライドシェアも開始。

運行時間：土日 8:00～17:00 運賃：タクシー料金の8割
運行地域：小山町全域、御殿場市全域（発着のどちらかが小山町内に限る）
新松田駅（降車専用）
予約方法：専用アプリで7日前から受付。10月～は電話予約と現金支払いが可能となる。

デマンドバス



利用者の予約に応じて町内全域と御殿場市の一部を運行する。効率的な配車とルート設定が可能。ライドシェアと同じアプリや電話からの予約もできる。297カ所に設けられたバス停間を自由に移動することができます。

運行時間：平日 8:00～19:00、土日祝 8:00～18:00（年末年始休止）
運賃：300～500円 乗降場所：297カ所のバス停から乗降場所を予約
予約方法：専用アプリ・電話

巡回バス



生涯学習センターを起点に、病院・スーパー・公共施設などを経由して町内を4ルートで巡る。無料で利用できるため、日常の移動手段として多く活用されている。

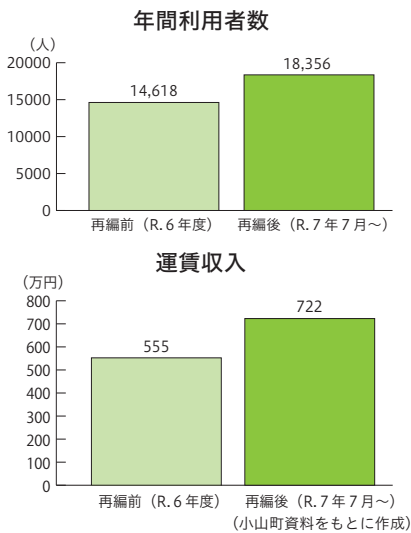
運行時間：平日・土曜 9:00～17:00（日祝・年末年始休止）
運賃：無料
ルート：4ルート（成美、明倫、足柄・北郷、須走）

用し、地元の人材を雇用して運行にあたってきています。町外から請け負って通ってくるのではなく、町の中に居を構えてくれたわけです。

土地勘のある方が乗車予約のコールセンターにいますと、「あの角の家の」「いつもの病院へ」といったやり取りで話を通じます。利用する側の安心にもつながります。運行の担い手が地域に雇用として生まれ、空き家も活かされる。交通が、単なるサービスではなく、地域コミュニティの一部として根づいてきた実感があります。

台数そのまま利用数1・3倍 システム刷新で予約取りやすく

―再編によって、何が変わりましたか。
込山 利用者が伸びたことです。デマンドバス台数は変わっていないのに、年間の利用者は1万4618人から1万8356人へ、約1・3倍に増えました。1運行あたりの乗車人数も



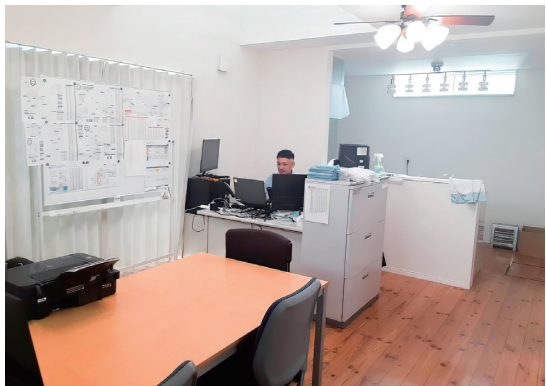
現場の足と事業者の力 重ねて編んだ網の目

「職員の力の入れ方があったからこそ」と町長が語る、その現場。三層の網の目は、どのように編まれたのか。勝又徳之小山町企画政策課長に聞きま

―網の目をつくるうえで、現場ならではの工夫を教えてください。

勝又徳之小山町企画政策課長（以下「勝又」） 一番の工夫は、地域のごみステーションをデマンドバスのバス停にしたことです。地図の上で等間隔に置いて、そこまで実際に歩いていただけるかは別話。その点、ゴミステーションは近所の方が毎日通う、いちばん身近な場所です。使い慣れた所から乗れると分かります、住民の方から「うちの近くにも」と声が届くようになり、随時増やしていきました。

うれしい半面、今度は「便利なのに予約が取れない」という声が届くようになり、その声を何年も受け止め続け



みつばモビリティの営業所。町内の空き家を活用して営業所を開設した

1・54人から1・70人へ上がり、運賃収入も約553万円から約723万円へと3割伸びています。

予約の仕組みが変わったことが、大きな要因です。みつばモビリティに切り替えて予約システムを刷新し、一台の車に効率よく相乗りを組めるようになりました。町民の皆さんには、「OYAMARIDE」というアプリと電話の両方で予約していただけます。同じ台数でより多くの方を運べるようになった結果、以前は8日前の受付開始と同時に集中していた予約も、今では当日でも取れるようになりました。

つまり、車両を増やさずに輸送力を上げられたわけです。仮に利用者に合わせて増車していれば、費用が毎年かかり続けたはずですが、それを仕組みの力で避けられました。だからこそ、公共交通サービスを増やしながら、事

業費そのものは膨らませずに済んでいます。導入の初年度こそ、バス停の設置やシステムの導入といった一時的な費用はかかりましたが、今後は効率的な運用によって、過年度と同等の予算枠で管理できる見通しです。

―その仕組みを、現場でつくり上げたのが担当職員でした。

込山 デマンドバスのバス停のうち、乗り降りがいちばん多いのは、町外にある御殿場市の富士病院です。町内に大きな病院がないという積年の課題に、交通が応えつつあります。「免許返納後の不安が解消された」「300円で町内を自由に行き来できるのは心強い」といった声も届いています。買い物にも、通院にも行ける。外出の機会そのものを、公共交通がぐくりに出しています。移動の自由は、まちの活気の源だと考えています。

成功例の丸写しでなく「小山モデル」を届ける

―国土交通省の調査によれば、何らかの対応が必要な「交通空白」地区は全国2740地区（2026年5月時点）あるとされています。

込山 交通空白の解消に向けて、欠かせないことが三つあると考えています。まず、住民の声に耳を傾けること。移動に関する切実な悩みや要望を、丁寧に拾い上げる。これが何よりも重要です。次に、その町ならではの道や暮らしの様子に合わせて、無理の

ることになります。かといって、増車は簡単ではありません。費用もかかりま

―巡回バスは、その受け皿になったのでしょうか。

勝又 ところが、乗ってくださるのは別の層の方々でした。予約の要らない無料のバスが、外出をあきらめていた方の背中を押したのです。

―制度を使うにも、現場の裏づけが要ったそうですね。

勝又 「自家用有償旅客運送」の要件は、実態で示さなければなりません。そこで近隣のタクシー会社を回り、配車の実情を確認していきました。机上で「空白地です」と言うだけでは、制度は動きません。

―予約の多くがアプリ経由だと言いました。高齢の方が多い町で、どう定着させたのですか。

社会と共生する樹でありたい。

SociOak Group

ソシオークグループのHPIはこちらから

ソシオークグループの包括ソリューション

地域・社会の課題を解決し、ニーズに応えるサービスを包括的に提供

地域交通を革新するモビリティサービス

公共ライドシェア

自動運転

A配車システムX巡回

食育

公立小学校・中学校給食、公立保育園給食

3育

保育

学童・児童館、保育園

教育

ALT派遣、オンライン英会話、語学研修

多様なソーシャルサービス

就労系障がい福祉サービス

障がい児通所支援

農福連携

公共施設・指定管理

PPP/PFI

指定管理

総合ビル管理

ビルメンテナンス

スポーツ施設運営・管理

SociOakが提供するDXプラットフォーム

Socio-ONE

ソシオコネクシブ

HR-Tech

学童・保育

福祉

データエンリッチ

BPO

高セキュリティ・高品質のデータ入力

改善

コンサルティング

データを通じて課題を抽出し、改善策を策定して成果支援

「安全・安心」「安定した運営」を支える「現場力」

学校・保育園給食事業

公立小学校・中学校給食、公立保育園給食

食育

子育て支援事業

学童・児童館、保育園

保育

国際理解事業

ALT派遣、オンライン英会話、語学研修、外国人財紹介

教育

モビリティサービス事業

自動運転・公共ライドシェア・自動車運行管理

公共施設・指定管理、PFI事業

スポーツ、地域振興、復興創生、社会教育、総合ビル管理

障がい福祉事業

就労系障がい福祉サービス、農福連携、障がい児通所支援

BPOプラットフォーム事業

HR-Techシステム、学童・保育向けICTシステム、相談サービス

<ソシオークグループ実績>

進出都道府県 41都道府県

進出自治体数 240自治体

誰もが、いつでも、どこへでも、行きたいときに行ける地域交通を

労務管理の負担ゼロ

運転手の採用・教育・シフト管理をまるごと引き受け
急な休みにも必ず「代務運転手」を手配
煩雑な保険手続きや交渉など、事故処理はすべて当社が対応

連休リスクの解消

万一の事故対応も

コミュニティバス・デマンドバス導入の詳細なメリット・ご相談はこちらから



株式会社みつばモビリティ

東京都港区三田三丁目5番13号

住友不動産東京三田ガーデンタワー3階